

課題番号	1	分野名	造林	予算区分	県単
研究課題名	強度間伐による森林整備に関する研究				
担当者名	菅沼 好一	研究期間	平成19～23年度		

目的

強度間伐による人工林から広葉樹への転換は、郷土樹種を主体とした森林構成に誘導することが、より健全な森林づくりになる。栃木県内には、本県と東海地方に隔離分布するフモトミズナラが広範囲に存在することが知られているが、生活史や分布について不明な点が多い。このため、本県の広葉樹化・針広混交林化の指針を作成する中で、フモトミズナラについてもこの分布・生活史を明らかにして、本県の広葉樹化等を推進する上での参考資料とする。

方法

1 フモトミズナラの分布及び生活史の解明

宇都宮市周辺の地理条件の異なる4か所に20×30mの試験区を設定し、林分構造（試験区内の胸高直径5cm以上の全成立木の胸高周囲長及びフモトミズナラの座標位置）、実生の消長、雄花と種子落下量を計測する。

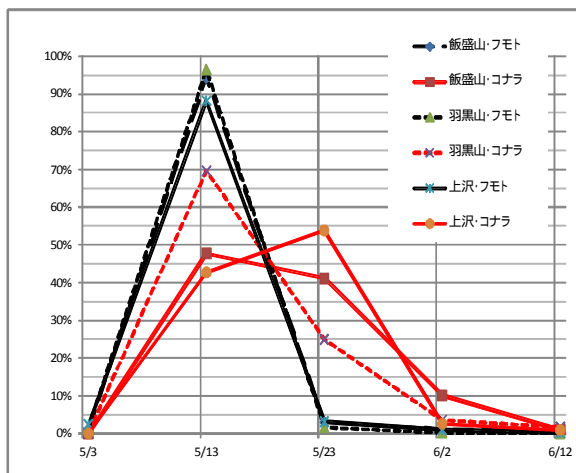
結果概要

1 フモトミズナラの分布及び生活史の解明

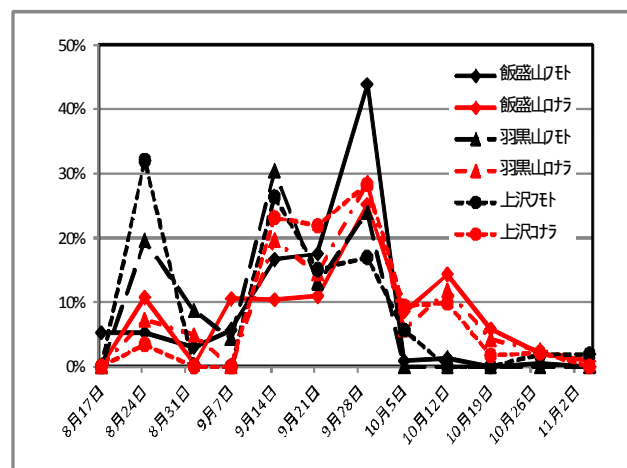
那須地域及び隣接地域において、分布域を確認した。

宇都宮周辺の調査地3箇所の雄花落花量と種子落下量の推移は以下のとおりとなった。

雄花落下量（％）の推移



種子落下量（％）の推移



雄花・種子ともにフモトミズナラがコナラよりも先に落下のピークを迎えた。また、雄花・種子ともに落下期間は、コナラの方がフモトミズナラの方が長かった。雄花落下量は、フモトミズナラ：コナラ＝1.77であったが、種子落下量は、フモトミズナラ：コナラ＝1.35になった。